

目的 本研究では、比較的薄手の布で構成されるワンピースドレスに焦点を絞り、まず、出来るだけ広汎に婦人服地を収集し、その力学的性質の測定を行う。次に、意図するシルエットを得るためには、どのような力学特性のどの範囲の布を選択すればよいのかを知るために、ワンピースドレスのシルエット分類を行い、各シルエットについて適切な布を服飾専門家を対象として官能検査によって促え、その官能評価値と布の力学特性とを関連づけ、各シルエットに適した力学量の範囲を明らかにする。

方法 1984年に日本の紡績・合織メーカーから市販の婦人薄手布を収集し、力学量の測定はKES-F方式により、薄手布の測定条件である高感度条件で行い、その中から曲げ剛性Bおよび曲げヒステリシス2HBが出来るだけ台形分布し、かつ、各種の繊維素材を含むように50種類の布を官能検査の試料として選定した。ワンピースドレスのシルエットは代表的な4種類に分類を試み、各シルエットに適した試料の官能検査の結果と布の力学特性および力学量から算出した基本風合い値やドレープ係数との関係を解析した。

結果 423種(カジュアル用116種, 非カジュアル用307種)の婦人薄手布を収集し、単位面積当りの重量Wは $3.2 \sim 26.2 \text{ mg/cm}^2$, Bは $0.004 \sim 0.307 \text{ gf}\cdot\text{cm}^2/\text{cm}$, 2HBは $0.001 \sim 0.176 \text{ gf}\cdot\text{cm}/\text{cm}$ に分布した。衣服のシルエットは布の自重でたれ下がった時の布の曲げ特性によって決まり、ワンピースドレスの各シルエットについて $\sqrt[3]{B/W}$, $\sqrt{2HB/W}$ の適値の範囲が求められた。また、基本風合い“こし”“はり”の寄与も大きく、 $\sqrt[3]{B/W}$, $\sqrt{2HB/W}$ をパラメーターとして算出されたドレープ係数もシルエットを決定づけることが明らかになった。